

利尻島からのモンズズメバチの初記録

佐藤雅彦¹⁾・牧野俊一²⁾

¹⁾ 〒 097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町 利尻町立博物館

²⁾ 〒 305-8687 茨城県つくば市松の里 1 森林総合研究所

New Records of *Vespa crabro flavofasciata* (Vespidae: Hymenoptera) from Rishiri Island

Masahiko SATO¹⁾ and Shun'ichi MAKINO²⁾

¹⁾Rishiri Town Museum, Honcho, Senhoshi, Rishiri Island, Hokkaido, 097-0311 Japan

²⁾Forestry and Forest Products Research Institute, Matsunosato 1, Ibaraki, 305-8687 Japan

Abstract. Adults and nests of *Vespa crabro flavofasciata* (Vespidae: Hymenoptera) were recorded from Rishiri Island for the first time.

利尻島におけるスズメバチ科の記録については花谷ほか (1968) によって初めて記録され、これまで 2 属 9 種が報告されているが、モンズズメバチ *Vespa crabro flavofasciata* が確認されたことはなかった (佐藤, 1999)。筆者らは 2006 年に実施された利尻町によるスズメバチ駆除作業において得られたサンプルなどにおいて本種の生息と営巣を同島から初めて確認するとともに、利尻町立博物館所蔵標本から 1 個体を見つけることができたのでここに報告する。なお、貴重なサンプルや情報を提供していただいた西島孝人氏 (利尻町役場保健福祉課)、石川拓蔵氏 (利尻町役場保健福祉課)、北島寿利氏 (利尻町杵形)、浜口毅氏 (利尻町杵形) に心からお礼を申し上げる。

確認されたモンズズメバチは以下のとおりであり、標本が得られたものについては利尻町立博物館膜翅目標本 RTMHy の番号を記した。標本のほとんどが利尻町の駆除作業に関連して得られたものであるため、確認地点はすべて利尻町に限定されている (図 1)。

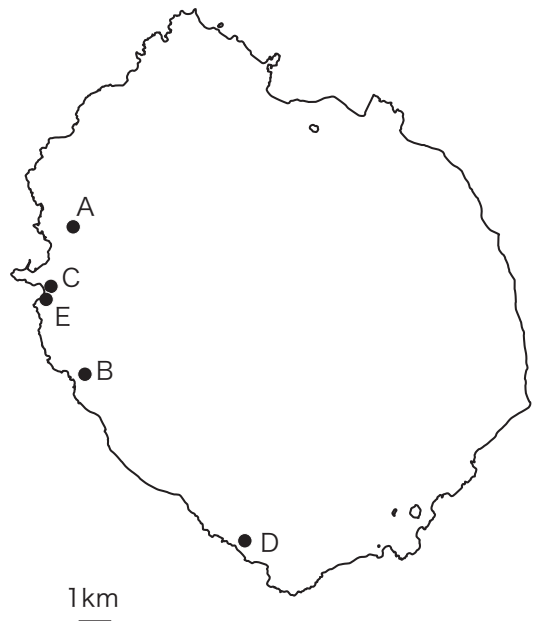


図 1. 利尻島でモンズズメバチが確認された場所。A: 利尻町杵形字種富町, B: 利尻町杵形字蘭泊, C: 利尻町杵形字泉町, D: 利尻町仙法志字, E: 利尻町杵形字泉町。

【駆除作業における確認】

利尻町杓形字種富・火薬保管庫 (図 1-A)

2006年6月13日に保管庫点検中の作業員が刺され、駆除の依頼が利尻町役場にはいった。翌日、巣の確認ができなかったため、市販の飲料水用ペットボトル(2リットル)を利用したトラップ(日本酒150ml, 酢50ml, 砂糖50g)を3個、火薬保管庫のそばに設置した。6月21日に全てのトラップが回収され、ケブカズメバチ(=キイロスズメバチ) *Vespa simillima simillima* 7個体、キオビホオナガスズメバチ *Dolichovespula media media* 1個体と混じってモンズズメバチ40個体が採集された(RTMHy4-50)。これら3種のズメバチは体長などから全て越冬明けの女王と判断された。6月14日から21日の1週間の間に、ケブカズメバチ女王の数をしのぐモンズズメバチ女王が得られたことは注目される。トラップの誘引餌の成分が異なるので、厳密な比較はできないが、札幌市におけるトラップ試験の結果では、ケブカズメバチやコガタズメバチの女王に比べると、誘引されるモンズズメバチ女王の数ははるかに少ない(Makino & Sayama, 2005)。

利尻町杓形字蘭泊・火葬場 (図 1-B)

2006年8月18日に葬儀準備のために訪れた役場職員によって火葬場の軒下に作り始められたば



図2. 杓形字蘭泊で営巣中のモンズズメバチ。

かりの巣が確認された(図2)。8月20日に殺虫剤噴霧、8月23日に巣と周辺に落ちていた駆除個体が筆者の一人である佐藤によって回収された。女王1個体の他、9個体のワーカーが見つかった(RTMHy52-61)。巣の外壁はお椀状の未完成のもので、巣は2段、卵のみの状態であった(図3)。モンズズメバチの営巣の確認および巣の回収は利尻ではこれが初めての記録である。

モンズズメバチはケブカズメバチと同様、巣の拡大によって営巣場所が手狭になると、7~8月頃、より広い場所へ引越し、新たな巣を作ることが知られている(松浦・山根, 1984)。本例においても、8月であるにもかかわらず、巣に成虫が羽化した跡がないことや、本種が一般的に最初の巣をつくる閉鎖空間ではなく、軒先という広い空間に営巣されたことから考えて、引越し巣と考えられる。

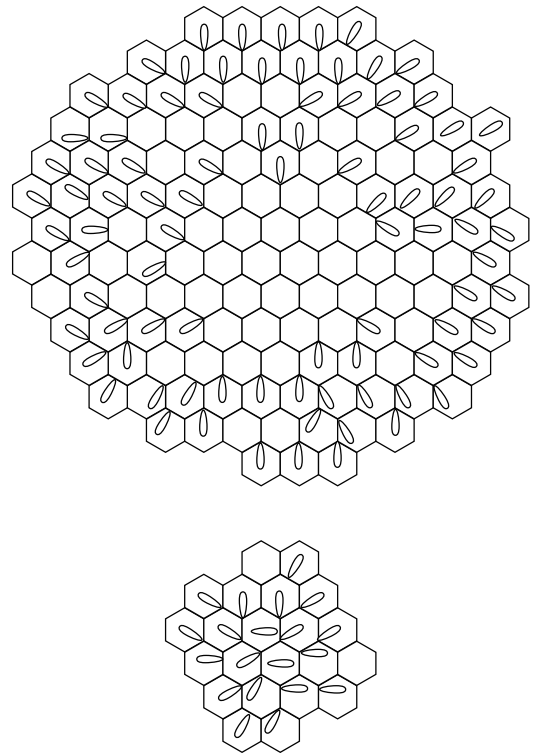


図3. 杓形字蘭泊で採集された巣のセルマップ。上段が一段目にあたる。楕円の図形は卵の位置を示す。

利尻町杓形泉町 (図 1-C)

2006年8月25日に車道の斜面の穴に入っていくスズメバチが多数確認され、利尻町役場担当課に通報がはいった。穴から1mほど離れた場所の電柱に早速トラップが1個設置され、モンズズメバチの他、ケブカスズメバチ、キオビホオナガスズメバチ、シダクロスズメバチ *Vespula shidai* の4種が多数捕獲されたが、標本は残されていない。

【標本における確認】

1995.viii.13, 利尻町仙法志, 佐藤雅彦, RTMHy62, 1創設女王。(図 1-D)

本標本は利尻町立博物館所蔵のケブカスズメバチの標本に混じり1個体のみ見つかった。標本の状態などから駆除作業で回収された創設女王と思われるが、残念ながら巣の記録が残っておらず、その当時、本種による営巣が行われていたことを示す証拠は残されていない。

2006.x.3, 利尻町杓形泉町, 浜口毅, RTMHy63, 1ワーカー。(図 1-E)

杓形にある消防本部で拾われた個体。

2006年における利尻町のスズメバチに関する駆除作業は25件あった。種の確認がされぬまま、巣が迅速に駆除されてしまうことも多いが、確認された種としてはケブカスズメバチが最も多く、この傾向は利尻町立博物館がスズメバチ標本を回収し始めた約15年前からほとんど変わっていないと思われる。同館所蔵のスズメバチの巣の標本は駆除作業によって回収されたものがほとんどであり、営巣個体の標本が残されているものを再確認するとその多くはケブカスズメバチであり、モンズズメバチの巣が回収されたことは1件もなかった。これらのことから、2006年に確認されたモンズズメバチは、同種が近年になって急速に利尻島に分布を広げた可能性が示唆される。島内の物資のほとんどはフェリーによって北海道本土から運ばれるため、それらの資材に混じってアオダイショウやチャバネゴキブリな

ど、本来同島に自然分布していない動物が持ち込まれることも度々みられた(三保・佐藤, 2000; 佐藤, 未発表)。越冬していたモンズズメバチ女王が資材などに混じって、比較的最近島内に持ち込まれた可能性も否定できない。

しかし、モンズズメバチの大きさや体色がケブカスズメバチに似ていることや、もともとモンズズメバチが島嶼部では少ないとされてきたこと(松浦・山根, 1984)などから、標本が残されることが少ない駆除作業においてケブカスズメバチと間違われ、長い間モンズズメバチの存在が島内では見過されてきた可能性も十分考えられる。実際に1995年の標本はケブカスズメバチと誤同定されて保管されていたことから、当時から数は少ないものの本種の分布は確実に島内にあったと考えるべきだろう。古い標本が残されていないため、どのくらい前から同種が利尻島に分布していたのかは今となっては調べようがなく、今後は駆除作業と連携し、利尻島内のスズメバチ類の分布や種構成の記録を確実に残すことで、利尻島におけるスズメバチ相の変化を追っていくことが必要と思われた。

参考文献

- 花谷達郎・小沼篤・酒井香, 1968. 利尻島の昆虫 (II) 鱗翅目を除くその他の昆虫. 利尻島動植物調査の記録. 東京農業大学第一高等学校. 79-91 pp.
- Makino, S. & K. Sayama, 2005. Species compositions of vespine wasps collected with bait traps in recreation forests in northern and central Japan (Insecta, Hymenoptera, Vespidae). *Bulletin of FFPRI*, 4: 283-289.
- 三保尚志・佐藤雅彦, 2000. 利尻町立博物館所蔵ヘビ標本5種の記録. *利尻研究*, (19): 11-13.
- 佐藤雅彦, 1999. 利尻産スズメバチ科の記録. *利尻研究*, (18): 47-48.
- 松浦誠・山根正気, 1984. スズメバチ類の比較行動学. 北海道大学図書刊行会. 428 pp.